

平成23年度 第2回 磐田市立学校給食運営委員会 会議録

日 時 平成23年11月11日(金) 午前11時40分から午後2時00分

場 所 磐田市立大原学校給食センター 2階 会議室

出席者 委 員：12名

事務局：12名

教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校給食管理室長
学校給食センター4名 学校給食管理室管理係4名

傍聴者 なし

概 要

会長あいさつ

それでは皆さん、あらためましてこんにちは。今日は、お忙しい中、また、足元の悪い中、それでも何とか傘をささずというような天候の中でお集まりいただきまして、ありがとうございます。

会議に先立ちまして私も含め、みんなで給食をいただきました。もう給食をもらえる学校を卒業してかなりの年数がたっております。特にPTAの皆様は、わが子が食べているのと似たような給食を実際に味わっていただきました。これからの議題にそのことも考えながら、やっていきたいと思えます。

また、この学校給食について、DVDを見ていただきましたけれども、その中で、特にPTAのお父さんお母さん皆さんがこれなら安心だね、こういうふうにやってくれているんだ、磐田の給食っていいねと思っていただければ、常日頃、努力している給食に携わる全ての者が報われますので、そういった点でもこれからご意見がありましたら、どしどし言っていただきたいと思います。

この給食センターができる概要等について最初にセンター長の方からお話がありましたが、私もこの給食センターができる時にどうしてもアレルギー対応の給食を入れてほしいということで、長野県の松本市に行きました。なぜかと言いますと、新しい市長が誕生した時に市の中のいろいろなことを知りたいということで、ある学校に行って生徒とともに給食を食べたところ、たった一人だけ別のものを食べている子がいて「あの子は何でみんなと違うんだ。」と言ったら「あの子はアレルギーがあるのでいっしょの物が食べられません。」ということでした。その市長は、幼い時からそんな差別があってはいけないという強い思いでみごとな給食センターを完成させました。

そこは、アレルギーの子とアレルギーでない子も見たい目はまったく同じ給食を作ることにしました。同じものを食べているようでアレルギーの子は、その物がちゃんと除かれた、要するに外見は同じように作るようにするところまでやっていました。

担当の方にお話を聴きましたら、とにかく1ヶ月前から全ての食べ物を保護者の方と打合せしていく。一品たりとも間違いがあってはいけないともものすごい努力をされているところでした。なかなかそこまでのものを全国のどこでもやるということはできませんが、磐田市教育委員会が中心となって、この給食センターを作るにあたって少しでもそれに近づこうという皆さんの努力の中で、先ほどDVDでも見ていただいたよう、アレルギー対応の部屋を設けていただきました。そういう子どもたちもみんなと楽しく給食ができるようなそんなことを願って、このような形でスタートしたものだと思っています。

ちょっと余談を言ってしまうかもしれませんが、そうしたことから皆さんも各分野の代表として

来られています。ますます磐田の給食がよくなるように、今日も当局の説明を聞いてわからないことはいくらかでも質問していただいて結構ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議題

議案第1号

平成24年度磐田市立幼稚園、小学校及び中学校の給食実施日数について

(事務局説明)

それでは、議案第1号について、ご説明いたします。学校給食の実施日数につきましては、磐田市学校給食条例施行規則第3条において「磐田市教育委員会は、学校給食を幼稚園にあつては年間90日以上を教育日の昼食時に、小学校及び中学校にあつては年間180日以上を授業日の昼食時に実施するものとする。」と規定されており、これに基づいて給食実施日数を決めています。3ページにお戻りください。小中学校におきましては、合併時は磐田地区180日、福田地区177日、竜洋地区182日、豊田地区178日、豊岡地区181日となっていました。平成18年度から全ての学校で「年間180日」に統一しており、平成24年度も引き続き180日で実施していきたいと考えております。

次に幼稚園でございますが、3歳児については、磐田・福田・豊岡地区と、竜洋・豊田地区では給食開始時期が異なるため、磐田・福田・豊岡地区が114日、竜洋・豊田地区が144日で実施しています。また、4・5歳児につきましては、基本的に磐田・福田地区が週4日、竜洋・豊田・豊岡地区が週5日実施しており、磐田・福田地区が145日、竜洋・豊田・豊岡地区が154日で実施しています。これは、幼稚園教育に対する合併前の各自治体の考え方の違いから実施回数が大きく異なっていたため、合併後の新磐田市として、同じサービスの提供をするべく調整をしているところです。これまで各地区幼稚園の代表の園長による給食検討委員会を開催してきておりまして、その話し合いの結果、現在の回数となっております。24年度に関しては、今年度に磐田・福田地区で大きな変更をしたことから、先ほどの給食検討委員会でも協議し、今年度と同じ回数で実施するよう考えております。ただし、依然として回数には差があることから引き続き調整を図っていくよう計画しております。

以上です。よろしくお願いいたします。

質疑応答等

<委員>

給食日数だけだとわかりにくいので、授業日数といっしょに照らし合わせて、授業日数はこれだけ、そのうちの給食日数はこれだけと言ってくれた方がイメージしやすかったと思うんですけど、母親の立場としては、給食が出てくれるととても助かるのでありがたいなと思っています。

<事務局>

授業日数は、220日から230日位です。

<委員>

給食がないときは、弁当それとも短縮授業ですか？

<事務局>

各学校によりまして短縮授業、特別行事等があります。宿泊訓練等いろいろな行事もあり、校外学習で外に出ることもあります。給食回数は180回、あとはお弁当、短縮であったりします。学校長が決めることになってはいますが、180回は確保できるであろうという日数になっています。

<委員>

この間、母親委員会の時にお弁当を作って食育の方を進める学校があると聞きましたが、給食回数が余ることなら、給食の方でやっていくと食育にもなるのかなと思いました。

<事務局>

5、6年が「お弁当の日」をやりたいというときに1年から4年までは食べます。全部がお弁当を作るのは無理です。入学式、始業式、終業式は、給食がないので6日から7日は少なくなりますので、お弁当を作ることはそんなに多くないと思います。

<委員>

昔に比べると、弁当が増えたかなと思います。

<委員>

180回というのは、数年間180回ですか？磐田市になってから、180日になったのですか？

<事務局>

平成18年度からです。平成17年の合併時は、旧市町村の回数をそのまま存続し、平成18年度に180回に統一しました。

<委員>

日数は、学校側にヒアリング等をして、それが妥当な日数かどうか決めているのですか？

<事務局>

ご意見もありますが、給食センターの稼働は190日です。学校によって給食実施日が違いますので、180日といっても実際には、190日とってあります。このくらいで実施していただきたいというこちらの調整と学校でそれぞれ協議していただいて、希望はありますが、今のところは180回でお願いしています。

<委員>

幼稚園では、今年度の教育日数が195日で給食と弁当を年間170回の目安でやっています。

給食は、磐田、福田地区が週4回、竜洋、豊田、豊岡地区が週5回です。磐田地区は金曜日を弁当持参として、園外保育等の行事をあてて取り組んできました。カリキュラムの中で、給食回数はだんだん増やしてきている事情があります。

竜洋、豊田地区は、早めに給食が始まっていたので、減らすことはなかなか大変なことであったということもあります。

豊岡地区でも3つの幼稚園がいろいろな話し合いをして、計画を立てています。

豊田、豊岡、福田地区は、センター方式、磐田、竜洋地区は、自校方式でやっているの、計画も変わってくると思います。

3歳児は、6月中旬位から早めに給食が開始されるようにだんだんなってきました。

議案第1号は承認されました。

議案第2号

平成24年度磐田市立幼稚園、小学校及び中学校の給食費について

(事務局説明)

議案第1号と同様、給食費についても今年度と変更ありません。現在の金額は、平成21年度

に見直しをした金額で、幼稚園の1食単価が、磐田・竜洋地区が239円、福田・豊田地区が215円、豊岡地区が201円となっております。小学校では磐田・竜洋地区が266円、福田・豊田地区が233円、豊岡地区が209円です。中学では磐田・福田・豊田が293円、竜洋地区が312円、豊岡地区が260円です。1食単価の違いは、主食である米飯の提供の違いによるもので、幼稚園・小学校については福田、豊田地区がセンター炊飯、磐田地区と竜洋地区が委託炊飯、豊岡地区が米飯持参となっており、中学校では磐田・福田・豊田地区がセンター炊飯、竜洋地区が委託炊飯、豊岡地区が米飯持参となっていることによる違いです。また、給食費の月額、1食単価に給食実施日数を掛け、実施月数で割ったものを10円単位に切り上げたものです。

以上です。よろしく申し上げます。

質疑応答等

<委員>

うちの子は、年少と年長が通っています。今日いただいた給食が中学の給食の量と聞きましたが、うちの子たちは、少食なので1/4程度なのかなと思って給食費を見たところ、中学校と幼稚園とがそんなに値段に大差がないので、ちょっとあれと思い、逆に中学が安くて、幼稚園が高いと思っていたんですが、いずれ自分の子も中学校に行くのでいいのかなと思ってみたり、そのところの金額は実際どうなのかなと思いました。

<事務局>

牛乳ですが、同じ牛乳を飲んでいますが、小中学校と幼稚園の値段が違います。小中学校については、「学校給食用牛乳安定需要確保対策事業補助金」がでていて、牛乳を皆さんに飲んでいただきたいという観点から、補助が出ています。値段は、45円66銭、幼稚園は、補助対象外で54円60銭です。ここで差が出ています。牛乳の単価の違いが幼稚園と小中学校との差となっていますので、ご理解いただきたいと思います。

<委員>

大藤幼稚園は自校給食で、学校で作っている給食を参観会の時に食べさせてもらいました。おいしかったという記憶があります。お兄ちゃんが中学校に行っていてこの給食センターの給食は、風の便りで大変まずいと聞いていたので、どんなものだろうと食べたらすごくおいしかったので、すごく安心しました。栄養もいろいろ考えて作ってくださっていますし、給食を293円で作るのは大変なので一生懸命作ってくださっているのを聞いてすごくうれしいです。これからもよろしく申し上げます。

<委員>

先ほど、日数の関係で小中学校は、180日で統一されていて幼稚園3歳児、4・5歳児の日数が上下してはいますが、資料で調整がある程度差をなくしていきたいなということはどうかがえましたが、一食の給食費についてどのように考えていますか？

<事務局>

食料材だけですので、ある程度のスパンで見直していく予定をしています。一食単価を決めて実施日数をかけて月で割りますので、日数が少なければ安くなるということになります。今のところ見直しの予定はありません。価格に関しては、そういうことを参考に決めていくことになります。

議案第2号は承認されました。

報告第3号

平成23年4月から9月までの栄養摂取状況及び喫食状況について

(事務局説明)

4月～9月までのそれぞれ栄養素の充足率については、幼小中学校別に平均値とあわせて示しました。

栄養素のエネルギーから食物繊維まで全体を通してみると、食物繊維が、幼小中いずれも不足しています。これは、4～9月の特徴というより、食生活の欧米化による影響が食物繊維の不足として数字に表れていると言えます。食生活が習慣化されたものをもとに戻すには、それ以上の時間がかかるため長期的に取り組んでいきます。

各栄養素の過不足への対策として、献立作成時に、食物繊維の場合、食物繊維を多く含む食品の栄養価、食品構成を確認しながら、料理の組合せや食材料の選択、使用量を算出し、一食の献立として実際かどうか検討し献立に組み込んでいます。献立に食品や必要量を組み入れても、その分、残菜量が増えるという状況です。家庭で登場しにくい食品は、やはり、食べなれていないため結局好き嫌いや食べず嫌いで、それが繰り返され不足につながっていきます。

給食の量について、春は様子を見ての調整期間をもちましたが、この時期は、規定量を提供しています。引き続き、喫食状況を確認しつつ、栄養士訪問や昼の放送での呼びかけ、栄養指導等しながら、充足率を上げていきたいと思えます。子どもの場合、食の知識が少ないことや、たとえ理解したとしても食べることにつなげることは難しいといえます。

・喫食状況について

10月3日～10月7日の一週間の献立と残菜率、学校から給食室への意見、感想等の紹介です。大原、豊田、豊岡の3センターと単独調理場である富士見小、竜洋中学校分を掲載しました。3センターの献立については統一ではありません。この一週間の献立をみても和の料理を中心とし、旬の食材や地場農産物を取り入れています。

単独調理場15校は、統一した基本献立をそれぞれの学校の給食回数や主食の曜日に合わせて、献立を組み替え給食を提供しています。単独調理場でも和の料理を中心に、旬の食材や、地場農産物を積極的に取り入れています。

・残菜について

気候がよくなると同時に食欲も増し、残菜もかなり減るわけですが、今年は気候が喫食に多少影響したようです。残菜率の高いものについては、量・味が適切であったかなどその原因についても検討し、次の献立作成等に生かしています。残食からわかることは、献立が子どもの苦手とする味が、酸味、苦味であること。必要量であっても子どもたちから言えば量が多すぎるとか、組合せがよくないとか、食べる時間が短いなどがあります。たとえば、コールスローサラダは、たっぷり野菜と味付けに酢を使ってあるので残菜が多いと考えられます。ほうとうは、山梨県の郷土料理を紹介し、珍しいメニューに興味をもって食べていたり、鶏とレバーの大豆がらめのレバーは、一般的に食べにくいのですが、食べやすく工夫され、頑張っけて食べています。クルミの入ったパンは、くるみを日常的に見ることもなく、多少渋みもあるので残食が多かったようです。

また、園児は天気により活動量が少なかったりすると食べ量が少なく、午前中に収穫したものを食べるなどの行事があったり、苦手な食材、嫌い決め付けて食べようとしないなど様々な要因が考えられます。

今後も引き続き、連絡ノート等で学校と連絡を密にとりながら、残菜の結果、感想・意見等を次の献立作成に生かすようにしていきたいと思えます。

質疑応答等

<委員>

栄養摂取状況の表をみて正直、自分でもどの野菜にどんな成分が入っているのかわからず作っていましたが、うちの子も「学校でもお芋を食べたんだよ。だからすごく通じがいいんだよ。」と

いうのを聞いています。旬のもので、4月から9月の期間の中で、この栄養素が足りなくなるということはあるのでしょうか？

<事務局>

栄養素で言うと一日分は、概ね100%に近いです。それに見合うような食材を使って献立を作成しています。その中に旬の物を入れます。旬を知ったり、地域を知るまた、旬の食材は、一年を通じその時に取れる食材が一番栄養価が高く、おいしいということで、紹介したり給食に取り入れています。栄養素が足りないからではなく、見合うような食材を使い、さらに地場のものも工夫して使いながら、一食あたりの給食の献立作成をしています。プラスおいしいが入ると思います。

<委員>

栄養のできあがった給食は、栄養が十分計算されていて完璧なものであっても、その個々の子どもたちにしっかりとよくかんで食べさせて、体調もよくて、精神状況でも楽しいこともあって気持ちがすごく柔らで食べた時と、いやなことがあって食べた時と、まったく同じ給食であっても吸収率はプラス、マイナス20%ぐらい差がでてしまうと聞いています。

楽しい学校で、みんなで楽しく食べればつらい子ども少しは減ってくれると思います。計算だけではないので、みんなにおいしい給食を作って欲しいと思います。

<委員>

基準とされている摂取量は、一日に対する何%ぐらいの摂取状況ですか？摂取状況のところ、充足率は残菜を除いたものか伺います。

<事務局>

これは、一日に必要とする幼稚園、小中学校園児児童生徒一食分1/3の数字が示されています。充足率は、残菜込みの状態です。残菜の多い時の実施状況はマイナスになります。

<委員>

エネルギーのところでは数%ですが、100%に満たないところがあります。そのあたりの理由は何ですか？

<事務局>

たんぱく質、脂肪の量を増やしますとエネルギーはすぐ上がります。実際に取りたい野菜などが低くて、量的に目一杯で残菜にスライドしてしまうところがあります。肉を一回り大きくすれば、すぐクリアしますが、生活習慣予防で適量は守りたいと思います。このような理由で充足も劣っているものもあります。

<委員>

主食での調整は、限界ですか？

<事務局>

磐田市は、主食が週3回ごはん、あと2回はパンか麺です。カロリーを上げるには、パンの回数を増やせば、カロリーが増えていいのですが、ごはん3回ではあまりカロリーは上がりません。実際に献立を立てていく中で、日によって高い時、低い時があります。850kcalいかない場合があります。パンの時は、900kcalになる時もあります。献立によって違うのが現実です。

<委員>

米飯の量も調整は限界ですか？

<事務局>

磐田市として市内統一して基準を決めています。学校は、3・4年を基準として米80g、5・6年100g、中学校は110gとしてやっています。ご飯の量で増やすのは、むずかしいと思います。個々に違いがあり、主に中学校では、小柄な女子と180cm以上ある体格の良い男子と差があります。3年は部活が終わっている状況ですので、110gでは多いというところもあります。

<委員>

全体を通しまして、複数感じた中に、磐田の子どもたちは、食育の観点から非常に恵まれているとつくづく感じました。50数年ぶりに学校給食をいただきました。一粒一粒のご飯をかみしめながらごちそうになりました。施設の状況も思った以上に管理されている、栄養成分の管理もきちっとしていると認識しました。

残菜は、一つの問題ではありますが、東日本の大震災で現地に入り、大川小学校を見てきました。10月10日の新聞に、避難された子どもが、避難先の学校で給食を食べたあとに調理員に「本当においしかった。また作ってね。」と言った。その後、そのことをお母さんに話したら、沿岸には食べるものがなかった。支援物資がたくさん集まってきたが、カップラーメンで命をつなぎました。1ヶ月半くらいたったあとで、その受け入れ先の学校で食べた給食がどれほどおいしかったか、子どもの口から感謝の言葉が自然に出たとのことでした。

お母さんは、台所に立つこともできなかった。子どもに何か食べさせたくてもできなかった。

一番感じたのは、学校給食センターが、被災地にあるのでいろいろな食材の調達がむずかしい。みんなで努力し、手分けしていろいろなルートを使って、何一つ不足がないように子どもたちに給食を提供したという記事がありました。

給食を食べられる地域に住んでいる子どもたちは、幸せとともに感謝しなければいけないし、お母さんたちもしっかり子どもたちに教えていただきたいと思います。

報告第3号は了承されました。

<会長>

この給食に関しては、教育長をはじめ、事務局長、教育総務課長、給食に関わるトップクラスがみんな出てきています。子どもたちへの安全安心な学校給食について、関連する当局が全面的に一生懸命やっている一つでもあります。ここへきて給食を食べたらとてもおいしかったと言っていたので、我々がおいしい給食のセールスマンになって、変な風評被害を取っ払っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。

以上 議事終了